温暖化は、ぼくのせい？

【小学校高学年】

ぼくの妹は、恐竜（きょうりゅう）が大好きだ。図鑑（ずかん）をすみずみまで読んでいる。夏休みに恐竜の出てくる映画や恐竜博物館に何度も行ったことがあるのは、そのせいだ。

「発掘（はっくつ）がしたい」

と今日もぼくに言ってきた。

「化石なんて、簡単にでるものじゃないよ。」

とぼくは言ったけれど、そう簡単にあきらめる妹ではない。

「お母さん、今度、発掘に連れて行って。」

と妹が、夕食の準備を始めている母に言った。母は、忙しそうにしながら、

「そんなことより、テレビを見ていないなら、消しなさい。それに二階の電気も消してきたの。」

と怒ったように言った。話の続きをしたい妹は、急いで電気を消しに二階に上がって行っ

た。ぼくは、うるさいなぁと思いながら、テレビの画面を、ただ、ながめていた。

妹がもどってきたのを見て、

「このあたりも発掘作業があったのよ。海だったのよ、この辺りは。」

と母が思い出したように言った。

「え、埼玉県には、海はないよ。」

とぼくは、間違いを正すように言った。すると母は、幸手市郷土資料館で聞いた話をしてくれた。

「今、住んでいる幸手市槙野地（まきのじ）は、過去に発掘調査があったのよ。その時に、住居のあとと貝塚が発見されたの。貝塚からは、アサリ、マガキとか、かなりの量の貝がでてきたそうよ。その中に、カエルや魚の骨も一緒に見つかったみたい。縄文時代のものだそうよ。」

妹は、カエルの骨と聞いて目を輝かせていた。貝の種類から、潮干狩りができるくらいの浅せの海の近くだったようだ。近くの杉戸町とは、違う貝が見つかったことから、当時の地形も推測されるようだ。そして、

「何で、海がなくなったのかな。」

と不思議に思って思わずつぶやいた。妹も考えていたのか、

「恐竜（きょうりゅう）が絶めつしたみたいに、いん石がぶつかると、海がなくなっちゃうなぁ。」

と言った。

「ううん、いん石とかじゃないみたい。今から約一万年前頃から、今と同じで温暖化が進んだみたい。海面が、今より、二、三メートルも高くなったんですって。茨城県の古河（こが）市付近まで海と考えられるんだそうよ。うちの一階がすっぽり海の底になっちゃうって思ったから覚えているのよ。」

と、母が、話してくれた。

「じゃぁ、なんで、今は、海がなくなっちゃったの？」

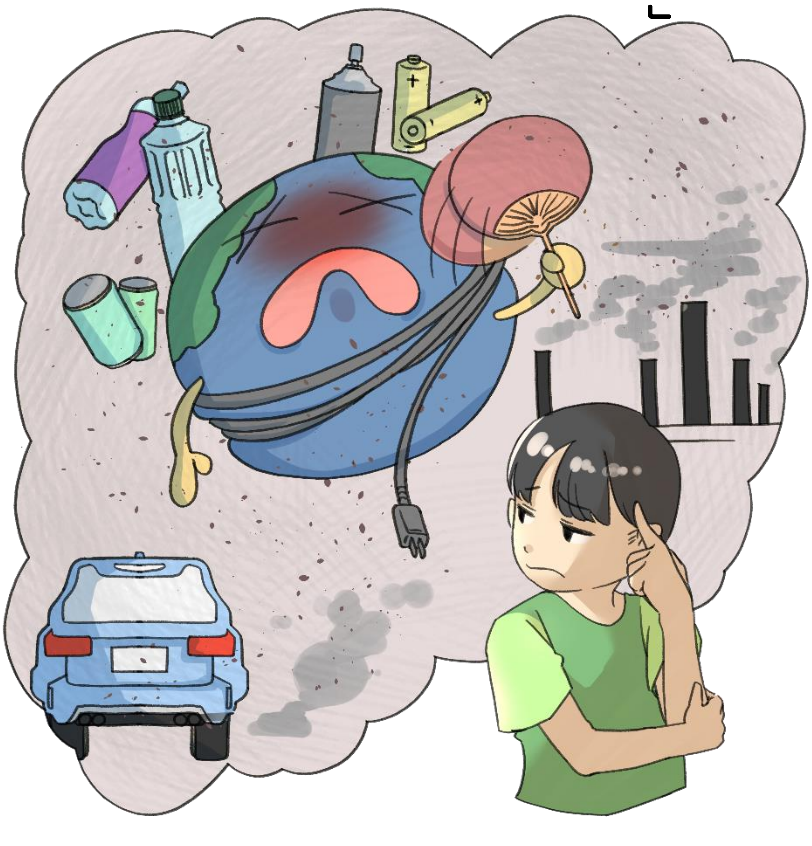
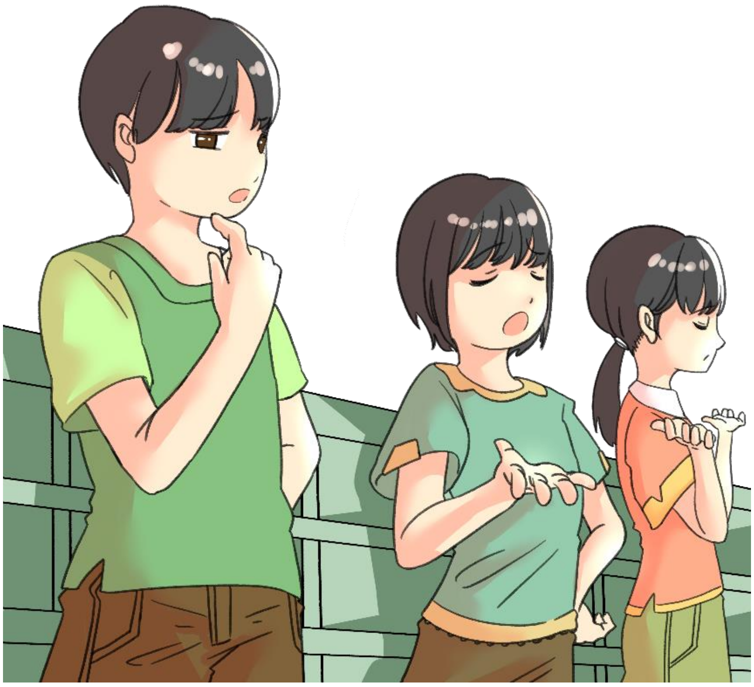
ぼくが言おうとしたことを妹が聞いてくれた。

「その後、寒冷化っていって、また寒い時期がきて、どんどん海面が下がっていったそうよ。だから埼玉県には、海がなくなったのね。」

「そうか。暑くなった後に、寒くなったのね。」

と妹は、納得したようだった。でも、ぼくは違った。

今言われている温暖化は二酸化炭素とかオゾン層が関係していると聞いている。昔は、電気もないし、自然がいっぱいあったはずだ。地震や火山のふん火みたいな自然災害で地形は変わるけれど、今の温暖化は、自然災害なのかな。それとも人間のせいなのかな……。



次の日の昼休み、暑さのせいで、外に行くことが禁止になった。業間休みにドッヂボールの続きをやるはずだったのに、教室で過ごさなくては、いけなくなった。
「全部、温暖化のせいだ。猛暑のせいで、ぼくたちの楽しみがうばわれるんだ。温暖化が悪い。」
と、くやしくて叫んでみた。すると、近くにいた女子たちに、
「何、言ってるのよ。電気当番なのに、電気を消すのを忘れていて、注意されていたのは、だれですか？」
「図工の時間に先生に、ごみを分別してなくて、注意されていた人もいたね。」
と言われてしまった。
「まったく、温暖化は、だれのせいなんでしょうね。」
と付け加えてくる女子。いつもなら、言い返すぼくだが、
「温暖化は、ぼくのせい？」
という思いで、いっぱいになってしまった。